

聖霊降臨後第4主日のミサ固有唱

教会のために、全世界のために祈るのが、本日の集祷文である。キリストは、われらのために、世に勝ち給うた。その御光はわれらを照らし、その聖寵はわれらを強める。〈入祭文、奉献文、聖体拝領唱〉

しかし、われらは、まだ天の平和をうけていない。主の平和を味わうためには、この死の体においてたたかうべきであり〈書簡〉、御聖体によって、霊的エネルギーを補強されなければならない。〈聖福音〉

詩編 26,1.2

DOMINUS illuminatio mea, et salus
mea, quem timébo? Dóminus defénsor
vitæ meæ, a quo trepidábo? Qui
tríbulant me inimíci mei, ipsi infirmáti
sunt, et cecidérunt.

(Ps. 26. 3). Si consistant advérsus me
castra: non timébit cor meum.

V. Glória Patri.

DA nobis, quæsumus, Dómine: ut et
mundi cursus pacífice nobis tuo
órdine dirigátur; et Ecclésia tua
tranquílla devotióne lætétur. Per
Dóminum nostrum.

ローマ 8.18-23

FRATRES: Exístimo quod non sunt
condígnæ passiónes hujus témporis
ad futúram glóriam quæ revelábitur
in nobis. Nam exspectatio creatúræ
revelatiónem filiórum Dei exspectat.
Vanitati enim creatúra subjécta est,
non volens, sed propter eum, qui
subjécit eam in spe: quia et ipsa
creatúra liberábitur a servitúte
corruptiõnis, in libertátem glóriæ

入祭文

主は、私の光、私の救いに在す、私は誰をおそれることがあろう。主は私の生命の救主である。誰をおそれることがあろう。私を苦しめる敵は、ゆらいで倒れる。(詩編 26.3)かれらが群れをなしておそいかかっても、私の心はおそれない。

V.願わくは、聖父と・・・

集祷文

主よ、願わくは、御摂理をもって、この世を秩序と平和とのうちにすすませ、主の教会を、喜びとしずけさのうちに奉仕させ給え。神として・・・

書簡

兄弟たち、現在の苦しみは、将来、わたしたちに現わされるはずの栄光と比べると、取るに足らないとわたしは思います。被造物は神の子らが現れるのを、切なる思いで待ち焦がれているのです。被造物は虚無に服従させられています、それは自分の意志によらず、そうさせた方のみ旨によるのであり、同時に希望も与えられています。すなわち、その被造物も、やがて腐敗への隷属から自由にさ

filiórum Dei. Scimus enim quod
omnis creatúra ingemíscit et párturit
usque adhuc. Non solum autem illa,
sed et nos ipsi primítias spíritus
habéntes: et ipsi intra nos géimus,
adoptiónem filiórum Dei exspectántes,
redemptiónem córporis nostri: in Christo
Jesu Dómino nostro.

詩編 78,9,10

PROPÍTIUS esto, Dómine, peccátis
nostris: nequándo dicant gentes: Ubi
est Deus eórum? V. Adjuva nos, Deus
salutáris noster, et propter honórem
nóminis tui, Dómine, líbera nos.

詩編 9,5,10

ALLELUIA, alleluia. V. Deus, qui sedes
super thronum, et júdicas æquitátem:
esto refúgium páuperum in tribulatióne.
Allelúia.

ルカ 5,1-11

IN illo témpore: Cum turbæ irrúerent in
Jesum, ut audírent verbum Dei, et ipse
stabat secus stagnum Genésareth. Et
vidit duas naves stantes secus
stagnum: piscatóres autem
descénderant et lavábant rétia.
Ascéndens autem in unam navim, quæ
erat Simónis, rogávit eum a terra
reducere pusillum. Et sedens docébat
de navícula turbas. Ut cessávit autem
loqui, dixit ad Simónem: Duc in altum, et
laxáte rétia vestra in captúram. Et
respóndens Simon dixit illi: Præcéptor,

れて、神の子供の栄光の自由にあずかる
のです。わたしたちは今もなお、被造物
がみなとともに呻き、ともに産みの苦し
みを味わっていることを知っています。
被造物だけでなく、初穂として霊をいた
だいているわたしたち自身も、神の子の
身分、つまり、体の贖われることを待ち
焦がれて、心の中で呻いています。

昇階唱

主よ、われらの罪をゆるし給え。異邦人
に、かれらの神はどこにいるか、といわ
せ給うな。V.われらの救主なる神よ、わ
れらを助け、御名の光栄のために、われ
らを救い出し給え。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ、神よ御身は王座に
坐して、正義によって審き給う。患難の
うちある貧しき者のひなん所となり給
え。アレルヤ。

聖福音

その時、神の言葉を聞こうとして、群衆
がイエスの周りに押し寄せて来たとき、
イエスはゲネサレト湖の岸边に立っ
ておられたが、岸边に、二そうの小船が寄
せてあるのをご覧になった。漁師たちは
舟を降りて、網を洗っていた。イエスは
そのうちの一そう、シモンの舟に乗り、
岸から少し離れるようにお頼みになっ
た。そして座って、舟から群衆にお教え
になった。話し終わると、シモンに仰せ
になった、「起きに乗り出し、網を下ろ
して、漁をしなさい」。シモンは答えた、
「先生、わたしたちは夜通し働きました

per totam noctem laborántes, nihil cépimus: in verbo autem tuo laxábo rete. Et cum hoc fecíssent, conclusérunt píscium multítúdinem copiósam: rumpebátur autem rete eórum. Et annuérunt sóciis, qui erant in ália navi, ut venírent et adjuvárent eos. Et venérunt, et implevérunt ambas navículas, ita ut pene mergeréntur. Quod cum vidéret Simon Petrus, prócidit ad génuá Jesu, dicens: Exi a me, quia homo peccátor sum, Dómine. Stupor enim circumdéderat eum et omnes qui cum illo erant, in captúra píscium quam céperant: simíliter autem Jacóbum et Joánnem, filios Zebedæi, qui erant sócii Simónis. Et ait ad Simónem Jesus: Noli timére: ex hoc jam hómines eris cápiens. Et subdúctis ad terram návibus, relíctis ómnibus, secúti sunt eum.

詩編 12.4-5

ILLÚMINA óculos meos, ne unquam obdórmiam in morte: nequándo dicat inimícus meus: Præválui advérsus eum.

OBLATIÓNIBUS nostris, quæsúmus, Dómine, placáre suscéptis: et ad te nostras étiam rebélles compéllé propítius voluntátes. Per Dóminum.

VERE dignum et justum est, æquum et salutáre, nos tibi semper et ubique

が、何も捕れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を下ろしてみましよう」。そして、そのとおりにすると、おびただしい魚が掛かり、網が裂けそうになった。そこで、ほかの舟の仲間たちに合図して、加勢に来てもらったが、二その舟は魚でいっぱいになり、今にも沈みそうであった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足元にひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。シモンも、一緒にいた者もみな、捕れた魚の量に驚いたからである。ゼベダイの子で、シモンの仕事仲間であったヤコブとヨハネも同様であった。イエスはシモンに向かって仰せになった、「恐れることはない。今から後、あなたは人を漁るようになる」。そこで、彼らは舟を陸に上げると、一切を捨ててイエスに従った。

奉献文

私の目を照らし給え、私を、死の中にねむらせ給うな、また、敵に勝利をうたわせ給うな。

密唱

主よ、願わくは、われらのささげものをうけ入れて和らぎ給え。御あわれみによって、われらのさからう意志を主に向けさせ給え。神として・・・。

叙唱（三位一体）

聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつも、どこにても、主に感謝を

grátias ágere, Dómine sancte, Pater omnípotens, ætérne Deus: Qui cum unigénito Filio tuo, et Spírítu Sancto, unus es Deus, unus es Dóminus: non in unius singularitáte persónæ, sed in unius Trinitáte substántiæ. Quod enim de tua glória, revelánte te, crédimus, hoc de Fílio tuo, hoc de Spírítu Sancto, sine differéntia discretiónis sentímus. Ut in confessióne veræ, sempiternæque Deitátis, et in persónis proprietas et in esséntia únitas, et in majestáte adorétur æquálitas. Quam laudant Angeli, atque Archángeli, Chérubim quoque ac Séraphim: qui non cessant clamáre quotidie, una voce dicéntes:

詩編 17.3

DÓMINUS firmaméntum meum, et refúgium meum, et liberátor meus: Deus meus adjútor meus.

MYSTÉRIA nos, Dómine, quæsumus, sumpta puríficent: et suo múnere tueántur. Per Dóminum.

ささげるのは、実にふさわしく正しいことであり、我らの義務と救いである。御身は、御独り子と聖霊とともに、唯一の神、唯一の主にてまします。すなわち、御身は、唯一の位格にてましますのではなく、三つの位格における一体にてまします。われらは、御身の啓示にもとづき、御身の御栄光について信じ奉る真理を、御独り子と聖霊とについてもともに等しく、差別なく、信じ奉る。こうして、我らは、真の永遠の神をたたえ、その神性において、位格の区別と、本性の唯一性と、神の御稜威の平等性を賛美し奉る。天使、大天使、智天使も熾天使も、これをほめたたえ、極まりなく声を合わせて歌う。

聖体拝領唱

主は、私のより所、ひなん所、解放者にて在す。かれこそ、私の神、私のささえにて在す。

聖体拝領後の文

主よ、願わくは、われらがうけ奉った聖なる奥義が、われらをきよめ、またこの聖寵の賜によって、われらを守らんことを。神として・・・

※日本語訳は福音書及び書簡を除き、バルバロ『毎日のミサ典書』より引用。福音書及び書簡の日本語訳はフランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』(2011年)より引用。

「信仰年」の祈り (カトリック東京大司教区認可)

いつくしみ深い父よ、あなたは今から50年前、カトリック教会に第二バチカン公会議開催という恵みを与えてくださいました。公会議は、世にあって救いのしるしとなるという教会の使命を現代世界の中でよりよく果たすことができるよう、教会を刷新する大きな力となりました。

▲今、それを記念して「信仰年」を過ごすわたしたちを聖霊によって強め、導き、新たにしてください。救いの道具として選ばれ、地の塩・世の光として派遣されている教会共同体が、現代の荒れ野において悩み苦しむ多くの人々のいやし、慰め、励まし、希望となることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。▲アーメン。

またのご参列を楽しみにお待ちしております。

ウナ・ヴォーチェ・ジャパン一同 (Mail:info@uvj.jp URL: http://uvj.jp)